



鹿児島日英協会 ニュースレター 第7号
The Japan British Society of Kagoshima
Newsletter No.7 October 2017

会長ごあいさつ ～ニュースレター第7号発行に寄せて～

鹿児島日英協会の活動に関しましては日頃よりご理解、ご協力を賜り心より感謝申し上げます。
 英国との相互理解、友好親善促進に努めております当協会では、本年度二つの新しいイベントを企画いたしました。一つは青年部主催の「Bimonthly 英国研究会」です。英国研究者や鹿児島で活躍している英国出身者をお招きし、60分の日本語によるプレゼンテーションとそれに続く30分の英語による質疑応答を行うものです。詳しくは2～3ページの報告をご覧ください。
 もう一つの企画は、イギリスでの留学経験、旅行等の思い出を、英語又は日本語で綴る「エッセイコンテスト」です。両部門の入賞者の方々は10月の当協会年次総会で表彰させていただく予定です。
 今後とも更に魅力ある企画を組んでまいりますので、引き続き当協会の活動にご理解とご協力をお願い申し上げます。

鹿児島日英協会会長 酒瀬川純行（志學館大学人間関係学部・教授）



目次

- ① 鹿児島日英協会青年部主催 **Bimonthly** 英国研究会 (第1、2、3回) 報告・・・ p. 2-3
- ② 駐日大使記念講演会報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 4-5
- ③ エッセー【1】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 5
- ④ エッセー【2】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 6
- ⑤ 事務局より・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 7
- ⑥ イギリスひとくちメモ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 8

① 鹿児島日英協会青年部主催 Bimonthly 英国研究会(第1回)報告

日時：2017年1月29日（日）

場所：サンプラザ天文館（鹿児島市）

講師：酒瀬川純行（志學館大学教授・鹿児島日英協会会長）

内容：「英国このごろ ～政治と食と庭園と～」(90分)

まず初めに鹿児島とイギリスとのこれまでの交流の経緯、続いて、英国の概要、最近の政治動向を紹介。その後、英国の食文化、庭園の歴史や各地の名園について、講師の長い滞在・訪問経験をもとにスクリーンに映し出した写真やエピソードを交えて盛りだくさんの話をうかがった。

後半 30 分の英語による質疑応答では、英国の現状、文化等について活発な質問や、意見交換等が展開され、有意義な研究会となった。



日時：2017年3月26日

場所：キャンセビル（鹿児島市）

講師：ダニエル・フィリップス（鹿児島日英協会青年部、English Quest Director）

内容：「出身地ストーク・オン・トレント、イギリスのスポーツの歴史」(90分)

陶器づくりが盛んであること、食卓にのぼる食べ物など、講師の出身地であるストーク・オン・トレントの魅力と合わせ、世界中に広まったイギリス発祥の数多くのスポーツや、日本ではあまり馴染みのない大会なども紹介された。

クイズ形式のトークに、積極的に参加者からも発言があり、楽しく和やかなひとときであった。



日時：2017年6月10日

場所：キャンセビル（鹿児島市）

講師：アレックス・ブラッドショー（島津興業 社長室広報課マネージャー）

内容：「イギリスの観光業の期限や発達について」（90分）

イギリス国民の観光トレンドを時代ごとに紹介。観光業に携わり鹿児島とイギリスの交流活性化に尽力する講師の観光に対する思いや、日本のインバウンドにおける課題・鹿児島の魅力等、話題は多岐に渡った。

鹿児島の魅力や特産品をどう海外に発信するか、実際に観光や特産品生産業に携わる参加者から具体的な質問もあり、充実した意見交換も行われた。



② 駐日大使記念講演会報告

鹿兒島日英協会 主催

駐日英国大使 講演会

2017年
8月11日(金)

参加費 無料

17時～17時45分
(15分間の質疑応答を含む)

講演:
「英国と日本
～現在・過去・未来～」

会場:
鹿兒島県医師会館
(〒890-0053
鹿兒島市中央町8-1)

歓迎レセプション
(立食・平服)
18時～20時
講演会後、大使歓迎レセプションを
開催いたします。
参加費 3000円

ポール マデン駐日英国大使
His Excellency Paul Madden CMG

2012年11月、駐日英国大使として着任。
2013年、アジア太平洋総領事館長。
2011年、2013年、駐オーストラリア英国高等弁務官。
2007年、2011年、駐シンガポール英国高等弁務官。
2004年、2006年、貿易・産業政策担当(現)国際通商司にマコーン・デラクターとして出向。2004年には英米双方でイギリス側の受賞に際したチームを率いる。
2003年、2004年、外務省情報課長、パブリック・ディプロマシー政策担当。
2000年、2003年、駐シンガポール英国領事館高等弁務官。1996年～2000年、駐米英国大使館にて勤務。1992年～1996年には外務省本省で総領事館の拡大と並行して国際通商司担当。
初めての日本への赴任は1988年。以後1年間、経済・貿易政策第一等書記官として勤務。
外務省入省は1980年より1987年まで貿易企業官(現)国際通商司にて、様々な産業セクターや貿易政策を担当。日本担当課長や大臣秘書官(2年間)を務める。
この間、1992年に日本国務省主催のエンセインメントにて優勝し、授賞状。
日本国ロンドン大学 アジア・アフリカ研究学院にて学んだ。
ケンブリッジ大学にて経済地理学の修士号を取得。英国王立地理学会のフェロー。オックスフォード大学にて博士号を取得。
エリザベス女王陛下よりCMG (Order of St Michael and St George) が授けられた。
2006年に著書「Raffles' Lessons in Business Leadership」が出版された。
2015年にロンドンにて、自身の職歴による著書作品が上賞された。
セーラ マダン夫人との間に子供が三人、英国アングリカン出身。

●お問い合わせ・お申し込みはこちらまで
電話：099-812-8501(志学館大学内)
メール：jbskagoshima@yahoo.co.jp

*講演会・レセプションは、大使の直前上や心を奪わない理由によりキャンセルになることがあります。あらかじめご了承ください。

左記フライヤーにご案内のように、多忙なスケジュールの中、ポール マデン駐日英国大使閣下に、ご来鹿いただき、『英国と日本 ～現在・過去・未来～』と題して素晴らしい日本語でご講演をいただきました。

講演内容は、大使ご自身が動画を使って紹介した東京の駐日英国大使館の建物・施設、並びに大使館の仕事内容、続いて大使のご経歴、更にはこれまでの深い日英並びに英国と鹿児島との関係、これまでの経済・文化中心の交流から安全保障に関する新たな関係構築の必要性等多岐に渡り、聴衆一同深い感銘とともに拝聴させていただきました。

輝かしいご経歴の大使閣下に素晴らしい日本語でご講演いただき、又引き続き催された大使歓迎レセプションでも閣下令夫人とご一緒に多くの会員、出席者にご歓談いただけましたことは、私ども鹿児島日英協会にとりましては、この上ない喜びでございました。ここに改めて大使閣下への深甚の感謝を申し上げます。





③ エッセー 【1】

On 28th July, 2005, I arrived in Kagoshima with the intention of teaching English and studying Japanese. Over the past twelve years it has been my pleasure to not only teach the English language but also explain about my country, my hometown, and British culture to the citizens of Kagoshima. I hope that I have had a positive impact on people's opinions of the UK and of British people, and inspired some to go to Britain to see it with their own eyes. The teaching and learning has not been one-sided. In fact, since my arrival, I have learned a great deal about the history and culture of Kagoshima, too. Sadly, at schools in the UK, students are neither taught about the Anglo-Satsuma War, nor about the subsequent friendship and influence the British had on the modernization of Japan. As a history graduate, this history fascinates me so I feel very fortunate to have come to a place with such strong connections to my country. Furthermore, I also consider it a great privilege and honour to have had the opportunity to participate in the 150th anniversary celebrations of those events. Being part of an association like the JBSKYD (The Japan British Society of Kagoshima Youth Division) is very fulfilling to me, because I feel I am actively creating a bridge between Britain and Kagoshima. All of my activities with the JBSYD have thus far been very enjoyable and rewarding, so I am looking forward to being part of even more exciting events in the future.



ハロウィンイベントでの一枚



薩英文化祭でのトークショー

鹿児島日英協会青年部 Daniel Phillips (ダニエル・フィリップス)

④ エッセー 【2】

6歳の時、父の仕事の関係でロンドンにしばらく住んだのが、私がイギリス好きになる大きなきっかけとなった。その後再び2012年から2年間、幼い頃から抱いていた「絵描きになる」夢を叶えるべく、渡英。ロンドン芸術大学でイラストを専攻した。期待に胸を膨らませスタートさせた学生生活だったが、現実は厳しかった。専門用語が猛スピードで飛び交うなか、作品を描いてはプレゼンし、チューターやクラスメイトに酷評される日々。絵を描くこと自体が辛くなった。しかし、ロンドンまで来て夢を諦めたくなかった。課題にかじりつき制作し続けた。

卒業展示では自分の好きな「海」をテーマに作品をつくることにし、関連する土地や施設をまわった。真冬のブライトンでフィッシュ&チップスを頬張ったり、ドーバーの海岸で小石を拾ったり、早朝のロンドンビリングズゲート魚市場で卸売業者にインタビューをしたりした。鮮魚店にイラストの売り込みをし、店舗の窓に絵を描く仕事も始めた。展示直前は連日徹夜だったが、会場で作品を見たクラスメイトやチューターが笑顔で話しかけてきてくれたのが何より嬉しかった。大学ウェブサイトで作品の紹介もしてもらえた。諦めなくてよかった、と心から思えた。

卒業直後、ブリックレーンで行われたイベントで、地元アーティストたちとライブドローイングをしたのが今でも私の創作活動の原動力になっている。紛争が激化したガザ地区の子供達を支援するイベントで、即興で描いた絵をその場でオークションにかけ、売上金を全額支援にあてるのが目的であった。人生初のライブドローイングは、秋風が涼しいロンドンでも汗だくになるほど緊張した。無事に全ての絵が売れ、参加したアーティストたちとハグし合えた瞬間は最高だった。

2014年末に帰国し、現在は鹿児島市内でフリーランスイラストレーターとして仕事をしながら、観光業に携わっている。日々英語で鹿児島の魅力を外国人観光客に案内したり、海外出張先で鹿児島のPRをしたりしている。英語とイラストを両方続けられる環境に感謝している。日英協会に入会しまだ日が浅いが、鹿児島とイギリスのつながりを強め広げている素晴らしい方々と出会え、とても嬉しく思っている。楽しみながら活動に取り組んでいきたい。



大学の友人と手巻き寿司づくり



ブリックレーンでのライブドローイング

鹿児島日英協会青年部 柴ひかり

⑤ 事務局より

先に行われた当協会主催『エッセイコンテスト』で、次の方々が入選、優秀賞に選ばれました。おめでとうございます。

<日本語部門> 西藺 圭子様 『私と英国』
川島 和子様 『私と英国』

<英語部門> 佐久間 圭子様 The U.K. was the country

入選者の方々は、10月21日(土)の鹿児島日英協会総会で表彰、引き続き行われる懇親会で講評の後、喜びの声をいただく予定です。

<ご連絡>

- 1) 川崎琴美前事務局長が退任することとなり、3月より鶴田悠里子が新しく事務局長に就任いたしました。
- 2) 青年部副会長の川畑郁美が退任することとなり、替わって池平里香が副会長に就任いたしました。
- 3) 会員増強のため、ホームページ・ニューズレターの改善・拡充、魅力あるイベントの新設、青年部活動の充実等日々努力しておりますが、総体的には会員減少に歯止めがかかっておりません。会員の皆様のご協力をお願いいたします。

以上、よろしくお願ひ申し上げます。



⑥ イギリスひとくちメモ

英国の陶磁器 (China and Porcelain in the UK)



Royal Worcester のティーカップ (19世紀)



Burleigh のティーポット

中国、日本、韓国、ドイツ、フランス等多くの国々が優れた陶磁器で知られるが、英国にも伝統と高品質を誇る名器が多い。

陶磁器メーカーも「英国陶磁器の父」ジョサイア・ウェッジウッドが18世紀中葉に創設したウェッジウッド社を始め、ロイヤルドールトン、ロイヤルウースター、スポード、バーレイ、エインズレイ、ポートメイリロン等枚挙に遑がない。

上記を始め、多くの陶磁器工場の集中しているイングランド中部のストーク・オン・トレントは「陶磁器の里」(The potteries あるいは The World Capital Ceramics) と呼ばれ、多くの陶磁器愛好家、観光客が訪れる。

(文責：酒瀬川純行)

～ 今後の予定 ～

平成29年度理事会・総会・講演会・懇親会

開催日：2017年10月21日(土)

於：鹿児島県医師会館(鹿児島市中央町8番地1)

【鹿児島日英協会 事務局所在地】

〒890-8504 鹿児島市紫原1丁目59-1(志学館大学)

TEL: 099-812-8501 Fax: 099-257-0308

URL: <http://jbsk.jp/> Email: jbskinfo@jbsk.jp